

海の見える美術館 | MOA美術館

1982
作品ナンバー0207

文部省選定 第20回日本産業映画コンクール奨励賞

この映画は、1982年1月に熱海の山手に完成したMOA美術館を紹介したものである。この美術館には、創立者の岡田茂吉が精力的に蒐集して、戦後の混乱期に海外流出をまぬがれた日本美術の名品3000余点が収蔵されている。特に尾形光琳の「紅白梅図屏風」をはじめ、近世のすぐれた作品が多い。



朝の美しい海と、陽光に赤く染まったインド産砂岩の美しい美術館の外観から映画は始まる。美術館を取り巻く傾斜地の広い庭園は、尾形光琳の画風を表現したものといわれ、早春の梅をはじめ、桜、ツツジ、萩など四季の花が恵まれている。その日本の自然の美しさも四季の変化も、作品の画題となりあるいはデザインに取り入れられているので、外の自然と中の美術品の美が、時には密接な一体感を見る者に感じさせる。映画は数多い美術品を紹介して、中国美術の影響を受けながら、日本美術の優美な美しさや装飾性がいかにして生まれたのか、日本美の特質とその足跡を、中国との関係から琳派や浮世絵まで系統的にたどっている。

主な収録美術品は「王と王妃」ヘンリー・ムーア、「春」マイヨール、重文「樹下美人図」中国・唐時代、重文「高士観月図」伝馬遠中国・南宋時代、「花鳥図」伝銭選 中国・宋時代、重文「釈迦八相図」鎌倉時代、重文「四季山水図屏風」海北友松 桃山時代、重文「仮名消息」藤原俊成 平安時代、「唐三彩鳳首壺」中国・唐時代、国宝「色絵藤花文茶壺」野々村仁清 江戸時代、重美「鍋島 色絵桃花文皿」江戸時代、重美「九谷 色絵酒宴文皿」江戸時代、「釘彫伊羅保茶碗」朝鮮・李朝時代、「鹿下絵和歌巻」本阿弥光悦 桃山時代、国宝「紅白梅図屏風」尾形光琳 江戸時代、重文「湯女図」江戸時代、重文「洋人奏楽図屏風」桃山時代、その他。

記録
35ミリ
カラー／30分
日・西・葡・英語版

■企画
M・G・C ((株)メ
シアンカ・ゼネラ
ル)

スタッフ
■製作
村山英治
村山英世
■脚本・演出
村山正実
■音楽
湯浅譲二
■撮影
藤井敏貴
村山和雄
■照明
本橋俊男
■編集
沼崎梅子
■解説
江守 徹